

ちいきの大学

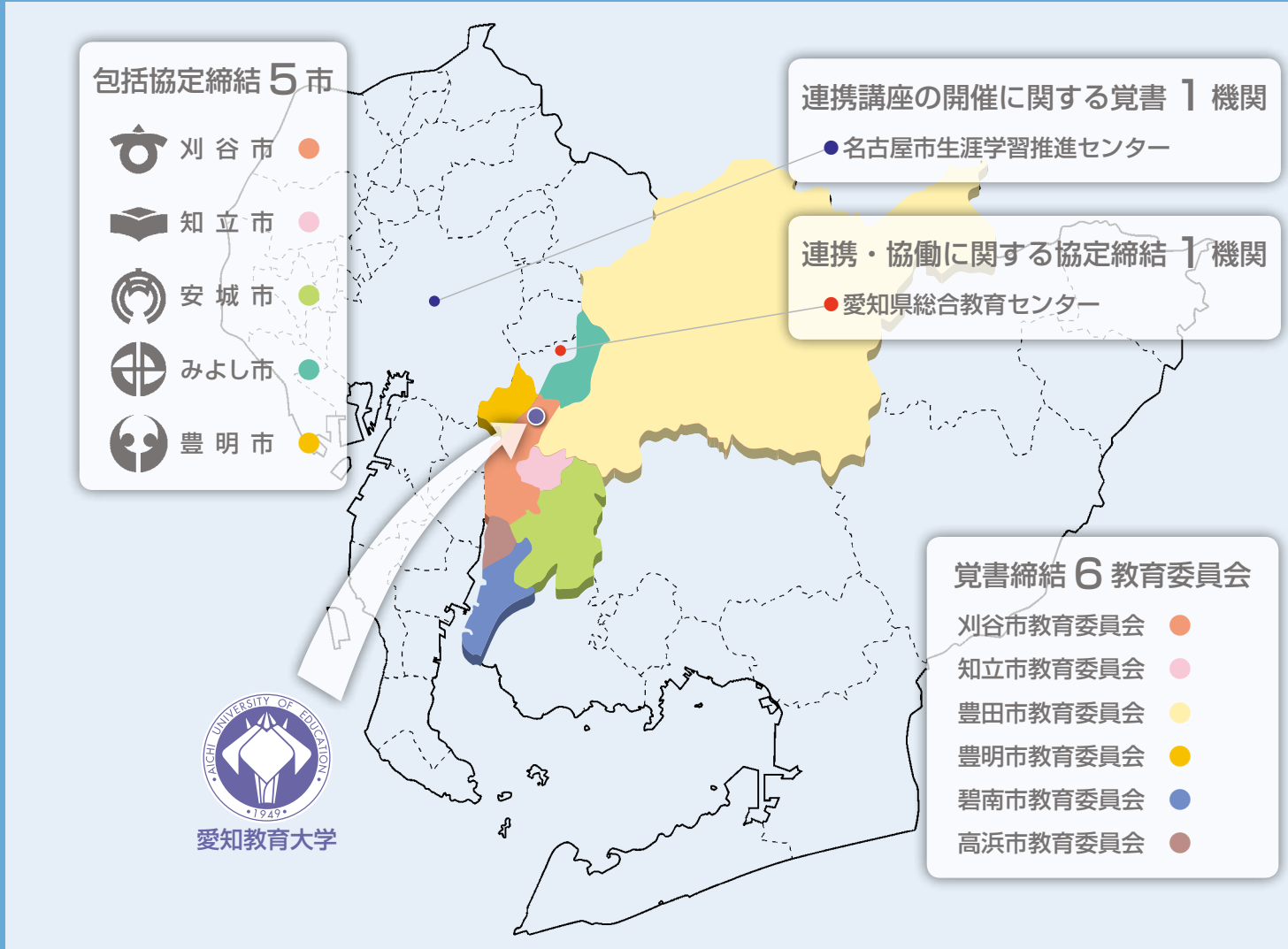


Contents

- 公開講座 ● 高校訪問授業
- 外国人児童生徒支援～学生ボランティア派遣事業～
- 学生の社会貢献活動 ● 愛知県総合教育センターとの連携・協働
- リソースルームから ● あいちの学校連携ネット
- インフォメーション ● 地域連携についてQ&A



愛知教育大学は教育界をはじめ広く社会と連携し、社会からの要請に応じて、教育研究の成果を還元し、社会の発展に貢献します。



ちいきの大学をめざして

地域連携センター長 都築 繁幸

今から480年前の1533年(天文2年)、水野忠政によって現在の刈谷市亀城公園内に刈谷城が築かれました。その後、江戸時代に水野勝成が刈谷藩主に任命され、3万石を支配することとなり、本年で刈谷城築城480年となります。

1863年(文久3年)、幕末の乱世にいち早く、尊王攘夷を夢見た志士たちが京都に集いました。「天誅組」として言われていますが、刈谷藩出身の松本奎堂もその一人で、「天誅組」の総裁として倒幕の狼煙をあげました。「天誅組」の拳兵は、倒幕と王政復古をめざすものでしたが、当時機がまだ熟していなかったために目的は果たせませんでした。しかし、彼らの先見の明がある行動は、「維新の魁」であったと言われています。今から丁度150年前の出来事です。

本学の淵源は、1873年(明治6年)創立の愛知県養成学校にあります。本年(2013年)は、「創基140年」を迎えます。愛知教育大学は「知を拓き、未来に向かう」若者を応援します。

公開講座

愛知教育大学は、地域や教員の皆様への社会貢献事業の一環として、様々な分野で専門的に研究している優れた講師陣が、教育大学としての特性を活かした内容を中心に、最新の研究成果を盛り込んだ講座を平成25年度に59講座開設します。

59講座のうち一般対象の講座は39講座で、そのうち名古屋市生涯学習推進センターとの大学連携講座を1講座、豊田市との共催講座1講座、包括協定締結や覚書を交わした7市と大学との連携公開講座を16講座開催します。教員対象の講座は26講座で、特別支援学校教諭免許状取得のための免許法認定公開講座を11講座、養護教諭専修免許状取得のための免許法認定公開講座を1講座、教員対象の公開講座を8講座、特別支援教育支援員のための公開講座を6講座開設します。

6月1日(土)に名古屋市生涯学習推進センターで大学連携講座「親子で学ぼう！」が開催されました。

この講座には、16組37名の親子の申し込みがあり、小学生21名が参加します。この講座は、文学・生物・ものづくり・手話について親子で共に学ぶもので、8回シリーズです。

第1回は、西田谷 洋教授が講師を務め「新美南吉の童話」その1が行われました。



新美南吉「赤い蝋燭」について難解漢字をかな・カナに書き改め、お手伝いの大学院生が朗読したり、みんなと一緒に読んだりして進められました。

小学校低学年の子どもたちにとっては、初めての新美南吉作品との出会いであることを考慮され、「赤いろうそく」の内容が分かりやすいように、あらすじが示されていました。そして、八つの場面がとても親しみやすい楽しい漫画で表現されている別添資料の挿絵も用意されていました。

おかあさんが、文章と挿絵と指し示しながら、西田谷教授の解説を繰り返している姿は、大変ほほえましく感じました。親子の絆を深め、親子で学ぶ楽しさを存分に味わって欲しいと願う公開講座です。

◆公開講座の情報

公開講座（一般・教員対象）の情報を以下のホームページで紹介しています。ご覧ください。

<http://www.aichi-edu.ac.jp/renkei/area/lecture.html>

高校訪問授業

高校訪問授業は、高等学校と愛知教育大学との連携の一つとして、本学で実際に行われている講義・授業等を身近に体験することで、高校生の大学に対する理解を深め、進学意欲を高めるとともに、今後の学習意欲を喚起することを目的としています。

実施時期は毎年6月1日～11月上旬の間で、受付期間は毎年4月1日～8月31日の間で、実施希望日の2ヶ月前までに愛知教育大学地域連携センターにFAXまたはmailで申し込んでください。

FAX：0566-95-0035

mail：chiiki@m.auecc.aichi-edu.ac.jp

高等学校から直接申し込みがあったもののみ受け付けています。

7月9日に名古屋市昭和区にある南山高等学校で高校訪問授業が実施されました。本学から教員養成の分野で、教職実践講座の中妻雅彦教授が、高校2年生男子37名を対象に授業「授業実践から教師の役割を考える」を行いました。



教師としての学級づくりの基本的な役割として、中妻教授は、五つのことを示されました。

- ① 笑顔をつくる
- ② 信頼をつくる
- ③ 確かな授業をつくる
- ④ 授業を楽しむ
- ⑤ とともに歩む

そして、教師としての二つの専門性を、小学校の授業の実際に基づいて解説をされるとともに、高校生との対話を随所に交えて授業を進められました。二つの専門性を人間としての専門性と教育力量としての専門性にとらえ、人間的なつながりや言葉でつながる専門性について、教科学習の専門性について、その内容を高校生に分かるようにより具体的にきめ細かく話されました。

いつもの高校の授業との違いに戸惑いながらも、積極的に教師の役割について意見、感想を述べる高校生の姿に好感がもてました。

本年度の高校訪問授業の実施状況は、8月22日現在、27高校への訪問が決まっています。6月に1校、7月に5校、8月に1校、9月に2校、10月に10校、11月に8校です。地域別で見ますと、三河地区が16校、尾張地区が3校、名古屋地区が8校です。公立高校が23校、私立高校が4校です。

外国人児童生徒支援

～ 学生ボランティア派遣事業 ～

学生ボランティアは、任意の登録制です。愛知教育大学の学生で、外国に繋がる子どもたちの支援を希望する者であれば、誰でも登録をすることができます。学生は、希望するボランティアの種類や時間帯をあらかじめ外国人児童生徒支援リソースルーム（愛知教育大学地域連携センター外国人児童生徒支援部門）に登録をします。そして、リソースルームで小・中学校から随時届く派遣依頼書の内容と、学生の情報とを照らし合わせながら、支援者を探し決定します。

リソースルームを通じて学生が行っているボランティア活動は、学校の外国籍児童生徒の担当者や担任教諭との打ち合わせ・連携のもとに、学生が主体的に行っています。

平成25年度（7月末時点）には、191名の学生がボランティアとして登録し、その多くが外国人児童生徒支援に参加しています。



○ 学生ボランティアの声（K.Oさん）

支援してよかったのは日本語の指導ができたことです。私は将来小学校の教師を目指しています。日本語のわからない外国人児童に対して日本語教育ができたのはとてもよい経験でした。日本語の指示をする上で外国人児童の知っている日本語で指示をしなくてはいけないことが困ったことでした。児童の知っている日本語は本当に少なく、言葉を選んで話しても伝わらないことが多かったです。

○ 学生ボランティアの声（A.Wさん）

どのように児童と接すればよいか、どんな説明をしたらより理解してくれるのか、どのような支援をすればやる気になるのかなどを、失敗しながらも実体験を通して学ぶことができることが良い経験だった。的確に具体的に説明をしないと、鋭い児童からツッコミが入り、児童がやる気をなくすこともあるので注意しなければいけないと分かった。毎回の反省で児童の様子、行動から学ぶべきことがたくさんある。どのように児童を注目させるかなど、課題は多くなるが、教員になる前に自分が児童・生徒の前で黒板を使い授業をすることができる機会は少ないので、良い機会であると思う。

学生の社会貢献活動

学生の社会貢献活動は、いろいろな形で実施されています。大学が主体になって事業として行っているものは、次のとおりです。

- ・外国人児童生徒支援学生ボランティア派遣事業
- ・訪問科学実験学生ボランティア派遣事業
- ・教育復興支援学生ボランティア派遣事業

この教育復興支援学生ボランティア派遣事業は東日本震災被災地で、本学が宮城教育大学と連携して実施しているものです。昨年度は宮城県大崎市、南三陸町の中学校で夏休み中の生徒たちの自主学習や部活動の支援、校内の草取りなどの教育環境整備に奮闘していました。本年度も、宮城県大崎市と南三陸町へ積極的に参加希望した学生ボランティアを派遣しています。

学生が個人的にボランティア活動に取り組む場合もいろいろな形があります。

- ・学生支援部に届く市町村教委・学校からの教育支援ボランティア活動に応募する。
- ・教育実習後に実習校へ行き、授業補助や教育活動のお手伝いをするために出かける。
- ・自分の母校や、サークル活動で関わっている学校や施設等に出かける。

愛知県総合教育センターとの連携・協働

連携・協働に関する協定を平成23年3月に締結してから2年余が経過しました。連携・協働強化について活動内容等の情報交換を5月に行いました。

- (1) 大学と総合教育センターとの連携・協働による研修カリキュラム開発事業として「新たな教材を創造する力を育成する教員研修カリキュラムの開発」の共同実施に取り組むことを確認しました。
- (2) 地域貢献機能の充実のために大学と総合教育センターとの共同事業の計画として「教材・題材に視点をいた5年研修における教員の資質向上に関する総合的研究（仮）」を検討することになりました。
- (3) 総合教育センターの初任研修等への大学教員の講師派遣や、総合教育センター会議等への委員派遣を行うことを確認しました。
- (4) 学生・大学院生の総合教育センターの研修への参加について協議しました。教職大学院生の初任研修参加実習を実施すること、学部生の参加については検討することになりました。
- (5) 大学からの情報発信として、情報誌「ちいきの大学」、「学校教育支援データベース2013・2014年版」を作成していく。

等を提示しました。

今後、12月18日(水)に県内地域教育推進協議会開催に向けて準備することになりました。

リソースルームから

地域連携センター兼担教員／日本語教育講座 准教授
上田 崇仁

リソースルームでは、地域の幼稚園、保育園の先生方のご意見をいただきながら、昨年度末『幼稚園・保育園ガイドブック』を作成し発行いたしました。第一弾は、ポルトガル語版と中国語版です。現在（2013年8月初旬）、スペイン語、タガログ語、英語版の作成を鋭意進めており、年内に発行が可能と思われま

す。これまで、リソースルームで作成してきた教材や資料等は、基本的に印刷物のみでの提供でしたが、より広く活動の成果を還元したいと考え、今回からダウンロードして使っていただけるようにいたしました。

このガイドブックの作成の背景には、近年、日本に滞在する外国人労働者の方々の多くは「出稼ぎ」から「定住」化への傾向があります。その変化に伴って、日本で生まれるお子さんや、幼少期に来日して日本の幼稚園や保育園に通うケースも増えてきました。

私自身、ほかの地方から愛知県に子供を連れて引っ越してきて、学校文化の違いに戸惑うことが多かったのですが、日本の幼稚園や保育園、小学校や中学校を経験したことの無い保護者の方は、お子さんが日本のそういった教育機関に通い始めたとき、いったいどれだけの情報を持っていらっしゃるでしょうか。また、そういった方々につながる私たちはどれだけの情報を提供できるでしょうか。

このガイドブックでは、外国にルーツを持つお子さんの保護者の方に、積極的に園の活動や行事に参加していただくために、単に翻訳された情報を提供するだけでなく、「～の目的のために」という視点を大切に作成しました。例えば、持ち物に「手さげビニール袋」とあります。写真も掲載されていますが、合わせて「使ったオムツを入れます」という目的も書かれています。これによって、どんなサイズのものがいいのか、どんな強さのものがよいか、保護者の方に理解し、判断していただけるかと考えました。

翻訳された情報だけで十分ではない、そういった考えに基づいて作成したガイドブックです。ぜひ、多くの方にご利用いただければと考えております。



あいちの学校連携ネット

愛知県教育委員会が平成24年3月に開設したサイトで、愛知教育大学も参加しています。

<http://www.gakkourennkei.aichi-c.ed.jp>

県内全ての49大学と、高等学校222校・特別支援学校34校・公立小中学校を所管する54市町村教育委員会の情報を掲載し、双方の連携した取組の実施につなげていくことを目的としています。

○掲載状況（8月31日現在）

大学が行う高校生や教員向けの講座等を集約して掲載しています。

- ・ 高校への出張講座
- ・ オープンキャンパス
- ・ 大学見学
- ・ 教員向け公開講座
- ・ 教員免許更新講習
- ・ 市町村教育委員会との連携事業

Information 1

愛知教育大学 保護者懇談会

平成23年度から開始した保護者懇談会を本年度も開催します。

日時：平成25年10月26日(土) 10:00～

場所：愛知教育大学 講堂にて受付

大学からの現状報告と、保護者の皆様方からの質問や意見を伺うことを目的としています。詳しい内容が決まり次第、本学ウェブサイトにて広報する予定です。また、保護者宛に案内を発送します。

Information 2

地域連携フォーラム

平成20年度より毎年開催、本年度は11月9日(土)に愛知教育大学で開催予定です。

地域連携の在り方や連携の方向性について、市民・企業人・学生・教育関係者と協議できるよう準備を進めています。詳しい内容が決まり次第お知らせします。

Information 3

愛知教育大学創基140周年記念講演

本年は、本学創基140周年にあたります。

2008年度ノーベル物理学賞受賞の益川敏英博士と本学の松田学長が未来の教育と科学について対談します。

詳しい内容が決まり次第、本学Webサイトにて広報する予定です。

日時：2013年12月4日(水) 13:30～15:00

場所：愛知教育大学 講堂